



阿蘇の大神が志々岐の岩根を蹴破ったため、茂賀の浦三千町歩の湖水は、そのさげ目を流れて菊池川となり有明の海へ注ぎました。その後、田底三千町歩の沃野が現われました。この中心が山鹿です。和名抄(平安時代)にも山鹿庄の温泉郷としてその名があるとおり、豊かな土地、その中を流れる菊池の清流各所に湧出する温泉、この恵まれた環境は、それらを取り巻く小高い原を古代人の住居とし、一大文化圏としたものと思われ、各所に点在する装飾古墳の群れは、

その事を如実に物語っています。山鹿地方は、この天与の自然の中に山の生産地として、荘園時代、菊池氏の治世、戦国時代、加藤、細川の治世を経て発展してきました。昭和二十九年四月一日、山鹿町を中心に三岳・平小城・三玉・八幡・川辺・米田・大道の各村が合併して市制施行、面積八十七・四四畝、人口三万七千五百人、農業と観光ならびに交通都市として誕生しました。

山鹿市見取図

昭和四十九年全国でも珍しい都市再開発事業に着工、五十年八月には、五十億円を費して再開発ビル(温泉プラザ山鹿)が落成、市営温泉、室内の温泉プール、市民会館、屋上駐車場を擁した一大ショッピングセンターが実現しました。一方、全市水洗化を目指す下水道は、四十四年着手以来、近代的な終末処理場も完成して、五十年からは、一部供用を開始市街中心部から、だんだんと水洗化の輪はひろがりつつあります。

米と西瓜・メロンの里

農業構造改善、圃場整備なども着々と進行、すし米の産地で知られた山鹿も、市制施行後は、山鹿西瓜・メロンの生産地としても有名になりました。不動岩から久原、小坂方面へのオレンジベルトも山鹿温州みかんの里として観光農地として脚光を浴びてきました。



▲ぬしは山鹿の骨なし灯籠、と「よへほ節」に合わせて踊る千人踊りは山鹿灯籠祭の圧巻です



▲山鹿大堰(52年5月末竣工)多目的な遊水ダムとして市観光の大きな拠点になるものと期待されている



▲チブサン古墳の石棺 弁慶が穴古墳と並ぶ代表的な装飾古墳



▲山鹿市観光物産館



▲山鹿西瓜は東京・関西方面へ